

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	文化財課	施策主管 課長名	平野克則
	施策No.	3	施策名	文化財の保護と活用	施策の 目指す姿	文化財を適切に保護・活用しています	関係課名	花巻市博物館		
	現状と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化を伝える有形・無形文化財が数多く所在しており、適正な保護が求められています。 ・文化財の存在と価値について、市民への周知が不十分です。 ・市内の文化財に対する興味・関心のある市民の割合は20.5%（市民アンケート）であり、減少傾向にあります。 							

◎ 前年度の評価の振り返り

<p>(前年度評価時の今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花巻城の調査研究の一環として、二の丸及び本丸の内容確認調査を行うとともに、取得した三の丸伊藤家住宅を保全し、市民に地域の歴史について興味と関心を喚起する。 ・市指定有形文化財「熊谷家」の屋根の葺き替えを行い、古民家活用事業の充実を図るとともに、より多様な活用事業を検討する。 ・考古、歴史資料を持参した出前講座や授業の開催など、学習機会の手段についてさらに検討する。 ・市民を対象とした事業（展示会・講座・体験学習）について、ニーズの掘り起こし方法や、参加しやすい環境づくりについて検討する。 ・数年一度は、市民ニーズに合ったテーマで、規模の大きな展示会を開催する。 <p>(反映状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花巻城二の丸の内容確認調査を行い、その結果を現地見学会により紹介したほか、伊藤家住宅については、環境整備を実施した。 ・熊谷家の屋根葺き替え工事により家屋の保存を図るとともに、神楽公演による活用を進めた。 ・小中学校や地域コミュニティの要望を聞き、歴史や文化に関する出前講座の開催と各種講座、体験学習の機会を提供した。 ・講座メニュー等については、学校や参加者の要望・意見を聴取し、拡充に努めた。 ・H29は、多田等観没後50年の年に当たり、同企画展を開催したことから、特別展は行わなかった。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

<p>(1)文化財の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査と指定 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財調査を行い、「猫塚家文書諸御用日記(30.2.28)」及び「花巻まつり(30.5.28)」を新たに市指定文化財とした。 ○国・県等の有形・無形文化財指定登録に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市指定無形民俗文化財「浮田神楽」の県指定(30.4.13)を支援した。 ○市が所有する文化財の適切な管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・市所有の文化財、天然記念物を、地域の保存会等の協力をいただき良好に管理した。 ○個人等が所有する文化財の適切な保存のための指導と維持補修に対する補助 <ul style="list-style-type: none"> ・「丹内山神社」ほか2件の文化財の維持補修に対し補助金を交付した。 ○埋蔵文化財保護のための適切な周知と指導の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡内で開発を行う際は、事前照会を行うよう周知を図った。 ○埋蔵文化財の記録保存調査および分布状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・破壊を免れない1遺跡を記録保存した。 ○総合文化財センターにおける埋蔵文化財の整理、分類、保管 <ul style="list-style-type: none"> ・花巻城二之丸跡等の調査により収集した出土品の整理、分類、保管をした。 <p>(2)文化財の公開と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種講座、公演会、セミナー等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会、セミナー、講演会、出前講座、体験学習会を開催した。 ○説明板や案内板等の改修、設置 <ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財の説明板の設置及び補修、遺跡の標柱を設置した。 ○文化財関連施設の特別展、企画展の充実
--

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
この1年間に博物館等の市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合（F-6）	文化財に対する興味・関心や理解をするため、市内にある文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座等に参加しているか、その状況を示す数値	<p>出展：まちづくり市民アンケート 問：あなたは、この1年間に市内文化財施設（花巻市博物館、石鳥谷歴史民俗資料館、石鳥谷農業伝承館、大迫郷土文化保存伝習館、総合文化財センター）を訪れたり、文化財に関する体験学習、セミナー、講話等に参加したことがありますか？ あると答えた市民の割合</p>	%	目標値	26.0	29.0	32.0	25.0	25.0	25.0
				実績値	22.3	20.5	21.1	19.7		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>■成果指標「この1年間に博物館等の市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合」・・・【達成度c】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財関連施設（花巻市博物館、石鳥谷歴史民俗資料館、石鳥谷農業伝承館、大迫郷土文化保存伝習館、総合文化財センター）の総入場者数は、20,761人で、前年対比74.1%であった。人数が減った主な要因としては、例年、博物館において開催する特別展の開催がなかったこと、総合文化財センターは、前年度のような大きなイベント（全国神楽大会）が無かったことから入場者数が伸びなかった。 ・博物館と文化財センターが実施した、講座・セミナー等への参加者は、講座メニューの充実を図ったこともあり、前年対比112.1%の4,569人と伸びた。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結	
1-1	文化財保護活用事業 市内の神社及び家屋の構造調査、石碑調査、元禄9年から享保12年の土沢町の米・大豆・銭の相場研究、成島和紙を調査し、調査報告書を刊行した(1冊、5件分)。文化財指定調査を行い、新たに市指定文化財に指定(2件)	文化財課	間接・少数	直結	C
			B		
1-2	文化財保護活用事業 市所有の建造物(4件)、天然記念物(2件)、遺跡(4件)の施設管理や除草を委託実施 市指定文化財3件の補修に係る経費の一部を補助	文化財課	間接・少数	直結	C
			B		
1-3	文化財保護活用事業 新たに文化財説明板を設置(6件)、補修(1件)	文化財課	間接・少数	直結	C
			B		
2-1	埋蔵文化財保護活用事業 開発に係る指導・届出が104件あり、うち破壊が免れない1遺跡を記録保存	文化財課	一致	直結	A
			A		
2-2	埋蔵文化財保護活用事業 市内3か所の史跡を地元保存会に委託し環境整備	文化財課	間接・少数	直結	A
			B		
2-3	埋蔵文化財保護活用事業 文化財センター担当の講座・講演会、体験学習の提供 (講座等参加者1,362人、体験学習789人)	文化財課	一致	直結	A
			A		
2-4	埋蔵文化財保護活用事業 遺跡への標柱設置(7件)	文化財課	間接・少数	直結	A
			B		
3	展示活動事業 博物館の企画展(1回)、テーマ展(2回)、共同企画展(1回)の開催	博物館	一致	直結	C
			A		
4	教育普及事業 博物館担当の講座(46回、1,944人)、体験学習会(18回、474人)の開催	博物館	一致	直結	A
			A		

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか) ・なし</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか) ・文化財保護活用事業については、コミュニティ会議や地域の保存会とより連携を図り、文化財の現状把握と適切な保存に努めると共に、市民に関心を持ってもらうことが必要である。 ・展示活動事業の「企画展」は、市民の知的好奇心に訴える企画と資料の選定を行い、開催趣旨に沿った内容の充実を図る必要がある。 ・文化財保護活用事業の「文化財をより身近に感じ、文化財の保護に対する理解と認識を高める」取り組みに弱さがあることから、従来の方法の充実に加え、新たな取り組みを検討する。 ・埋蔵文化財保護活用事業、展示活動事業、教育普及事業の「講座」「出前授業」「体験学習」については、受講者のニーズや時代に即した内容であるよう随時見直しを図る。 ・展示活動事業の「企画展(特別展)」の開催は、博物館入館者数に大きく影響することから、展示内容の吟味に加え、ワークショップ等の関連事業の充実を図る。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか) ・なし</p>

6 施策の総合的な評価

<p>(課題) ・文化財に対する市民の認知及び保護に対する理解が十分に浸透していないことから、向上させる手立てが必要である。 ・講座等の企画にあたっては、市民ニーズの把握や周知方法を検討する必要がある。 ・博物館と総合文化財センターで開催する企画展等は、学術研究的な印象が強くなりがちであるが、観覧者に歴史や文化がより身近なものとして感じることができるよう、また、多くの人が興味を持つ内容となるような工夫が必要である。 ・入館者数は、近接地で開催されたイベントに左右される面がある。</p> <p>(今後の方向性) ・文化財と市民との距離感を縮め、その存在と保護への理解を深めるため、市所有有形文化財(建造物)の利活用を関係団体へ働きかける。また、埋蔵文化財保護のため、県と連携し県内の開発業者に対し周知徹底を図るほか、発掘現場での現地見学会等により埋蔵文化財に理解を深めてもらう。 ・事業(展示会、講座、体験学習)の企画にあたっては、見学者や受講者から感想等を聞き取り、ニーズの発掘に努める。 ・博物館と総合文化財センターで開催する企画展等は、身近に感じられる内容や懐かしく感じられること、世間で話題になっていること等、多くの人が関心を持つ内容も取り入れる。 ・近接地で開催されるイベントにより入館者数が左右されることはやむを得ないが、展示の工夫等による日頃からの魅力づくりに努める。</p>
